

症例：75歳、男性

現病歴：1998年脳内出血

左片麻痺を残したが介助歩行可能

2005年腰椎圧迫骨折 歩行困難

2008年胃腫瘍で手術。その際胸部大動脈瘤の診断—経過観察

2009. 2. 14脳塞栓で緊急入院

ほぼ寝たきり。経口摂取困難

2. 25自宅退院したが

3. 4呼吸困難で緊急入院

解離性胸部大動脈瘤進行で大動脈弁閉鎖不全となり、うっ血性心不全が生じた

患者本人と家族は無理な治療を希望しない

本人 タバコを吸いたい

家族 苦しませたくない → 自宅退院

問題点：病状悪化時の対処

大動脈瘤破裂、心不全の悪化、誤嚥性肺炎、  
経口摂取不良での低栄養

退院時カンファを行い問題の共有を図り対応策  
を検討

家族を含め関係者が一堂に集まった

経過：4月8日自宅退院～5月16日永眠

訪問診療 9回

訪問看護 12回

訪問看護の存在が家族にとり精神的・  
肉体的負担軽減に有効

退院時カンファを行い問題意識の共有を  
図り、問題解決を図ることができた

# 看取り

最近は終末期を自宅で過ごす希望が多い  
現実には1割弱

茨城県第6次保健医療計画で  
在宅死亡者137.7／10万→150.6／10万目標

住み慣れた地域での在宅生活継続  
病理学的異常のある臓器治療でなく、病気・障  
害のための生活障害に配慮し心理的問題まで  
思いを寄せる  
生活圏にある社会的資源を利用  
多職種でサポート

# 在宅医療の提供体制(イメージ)

## 【在宅医療に係る関係機関の例】

病院(入院医療機関)

かかりつけ医

在宅療養支援病院

在宅療養支援診療所

訪問看護事業所

歯科診療所

地域包括支援センター

薬局

協働・連携

## 【4つの局面における多職種協働・連携】

住み慣れた場所、患者の望む生活の場

自宅

介護施設

サービス付き高齢者向け住宅

### ①退院支援

○入院医療機関と在宅医療に係る機関との協働による退院支援と切れ目のない継続的な医療体制の確保

### ②日常の療養支援

○多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの医療の提供  
○緩和ケアの提供  
○家族への支援

### ③急変時の対応

○在宅療養者の病状の急変時における緊急往診体制及び入院病床の確保

### ④看取り

○住み慣れた自宅や介護施設等、患者が望む場所での看取りの実施



24時間対応支援、多職種協働・連携促進、人材育成・普及啓発

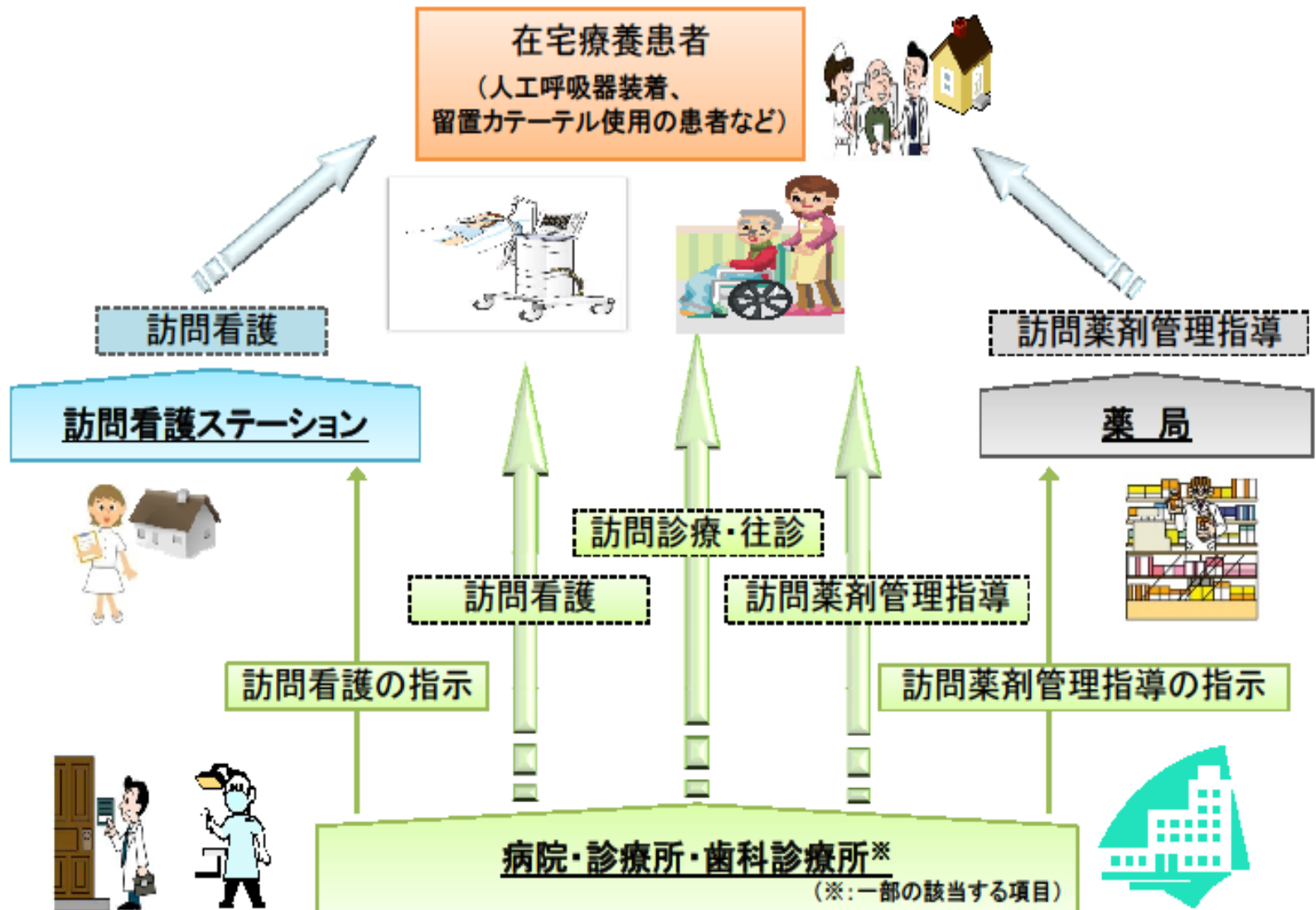
### 積極的役割を担う医療機関

○自ら24時間対応体制の在宅医療を提供するとともに、他の医療機関の支援も実施(在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所など)

### 連携を担う拠点

○地域の実情に応じ、市町村、医師会等職能団体等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築するとともに、人材の育成や普及啓発を実施

# 在宅医療の仕組み(イメージ)



## 在宅における医療・介護の提供体制

### ー将来ビジョンを支える3つの基本的考え方ー

1. 尊厳と安心を創造する医療      在宅医療は患者や家族の選択を尊重し支援
2. 暮らしを支援する医療      多職種との連携による環境整備
3. 地域の中で健やかな老いを支える医療

### ーかかりつけ医機能の充実ー

#### 「かかりつけ医」とは

何でも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師

- ・日常診療では、患者の生活背景を把握し、適切な診療及び保健指導を行い、自己の専門性を超えて診療や指導を行えない場合には、地域の医師、医療機関と協力して解決策を提供する
- ・自己の時間外も患者にとって最善の医療が継続されるよう、地域の医師、医療機関と必要な情報を共有し、お互いに協力して休日や夜間も患者に対応できる体制を構築する
- ・日常診療のほかに、地域住民との信頼関係を構築し、健康相談、健診・がん検診、母子保健、学校保健、産業保健、地域保健等の地域における医療を取り巻く社会活動、行政活動に参加するとともに保健・介護・福祉関係者との連携を行うまた、地域の高齢者が少しでも長く地域で生活できるよう在宅医療を推進する。
- ・患者や家族に対して、医療に関する適切かつわかりやすい情報の提供を行う

一将来ビジョンを具現化するための医師、  
医師会への7つの提言一

1. 高齢者の尊厳の具体化に取り組もう
2. 病状に応じた適切な医療提供あるいは  
橋渡しをも担い利用者の安心を創造しよう
3. 高齢者の医療・介護サービス提供によって生活  
機能の維持・改善に努めよう
4. 多職種連携によるケアマネジメントに参加しよう
5. 住まい・居宅(多様な施設)と連携しよう
6. 壮年期・高齢期にわたって健康管理・予防に  
係わっていこう
7. 高齢者が安心して暮らす地域造り、  
地域ケア体制整備に努めよう